

住み慣れた地域で安心して暮らす

認知症になっても安心して暮らせるまちづくり

認知症になっても、安心して暮らし続けることができるよう、「本人の尊厳の確保」「家族負担の軽減」「地域の理解の促進」を3つの柱に、認知症の人と家族を支援するさまざまな取り組みを進めています。

認知症の人と家族の支援

早期に気付く

1. 認知症診断費用を全額無料に

認知症（若年性も含む）診断費用を全額助成します。また、認知症と診断されたらタクシー券（6000円分）またはGPSの基本料金1年間無料のサービスも。

支援につなぐ

2. サポート給付金の支給

認知症と診断を受け、在宅で生活している人にサポート給付金として2万円を支給します。

継続的に支援

3. 認知症手帳の発行

（あかしオレンジ手帳）

支援サービスの紹介や相談窓口を掲載した手帳を発行します。

一冊で必要な情報と記録を



NEW 見守り支援サービスを導入

民間提案制度

ひとり歩きなどで行方不明になった高齢者の早期発見を目的とした「みまもりあいプロジェクト（緊急連絡ステッカー、検索配信アプリ）」を導入します。



おじいちゃんがいなくなったわ…探すのを協力して！



オレンジリングレンジャー

（小学生発案！）



詳しくはこちらから

明石市独自

地域で支える

オレンジサポーター制度

（認知症サポーター）

認知症と認知症の人を正しく理解し、地域や職場で応援。より専門的に学び地域活動を行うシルバー・ゴールドサポーターも。

オレンジピアサポーター

（認知症の人が活動）

認知症の人の同士がつながり、支え合い、当事者自身がより生き生きと暮らすための活動を応援します。



詳しくはこちらから

高齢者

食を通じた見守りを / 「みんなの給食」全中学校区で

月1回程度開催し、食事のほかに健康に関する体操なども行います。運営は地元のボランティア団体などが有償で行っています。

みんなに会うのが楽しみです



補聴器の購入費用の助成

聴力が低下し、生活に支障が生じている高齢者に補聴器の購入費用の一部を助成します。

対象 / 医師が必要と認めた65歳以上の人（所得制限なし）

助成額 / 上限2万円



補聴器

フレイル予防

ふれあいの里を拠点にフレイルサポーターの養成やフレイルチェック会を開催中。



NEW

大人も子どもも楽しめる明石市のオリジナル体操をやってみよう！



本のまちビジョンの2つの柱

本とつながる

いつでも、どこでも、だれでも、手を伸ばせば本に届くまち

本からつながる

本から人とつながり、知りたいことややりたいことに会えるまち



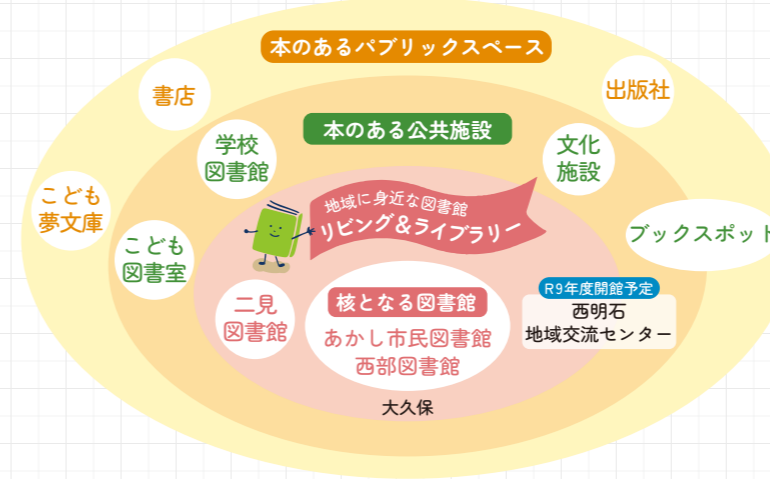
本のまち明石

公立図書館や文化施設、学校図書館、こども夢文庫、ブックスポット、書店など本に関わるすべての人と一緒に共創で本のまちづくりを進めています。

「本のまち明石」の具体的な方向性を示す本のまちビジョンを策定しました。



共振し、共創が生まれる本のまち



ワークショップを重ね市民の声からできました！

二見図書館

地域の居場所、交流の場所も兼ねた地域に身近な図書館へ



ふたみん

明石ゆかりの作家

2019年芥川賞作家

あかし本のまち大使

うへだ たかひろ 上田 岳弘さん

明石市出身。江井島小学校・江井島中学校・明石西高校卒。2019年に『ニムロッド』で第160回芥川賞を受賞。2022年、短編「旅のない」で第46回川端康成文学賞を受賞。



2026年芥川賞作家

とりやま 鳥山まことさん

明石市在住の作家・建築士。自ら設計した自宅を明石に建てた経験を元に書いた小説『時の家』で、2026年に第174回芥川賞を受賞。



明石えほん大使 たなか しんさん

明石市在住の画家・絵本作家。明石の海の砂を絵の下地に用いるなど、明石を拠点に活動する。文化博物館で開催した展覧会には、1万人以上が来場。



マンガとコラムでよくわかるお財布事情 みんなの財政白書あかし

明石市の財政状況や課題について、マンガやイラストで分かりやすく伝える「財政白書」を市ホームページで公開しています。



毎年4月頃に最新の内容に更新



みんなの財政白書あかしはこちらから

ありのままがあたりまえのまちへ パートナーシップ・ファミリーシップ制度

生活を共にするパートナーとして自治体が認定する「パートナーシップ制度」が全国に広がっています。

明石市の制度の特徴

- LGBTQ+に限らず、男女の事実婚カップルも利用可
- 親や子などの近親者も届出ができる

ソジェ

SOGIE

（性的指向、性自認、性表現）への理解を深めていきます

